

題　　言

本號の刊行が色々な事情のために遅れ前號が世にまみえてから半歳の月日が過ぎた。然しこの期間中に創立以來まだ若齢のわが衛研にとつては記念すべき四つの體験がプラスとなつた。かくして益々成人の域が近づきつつあることを思わせる。

四つの體験とは二つの全國的大會と、同じく二つの調査研究上の成果である。短い期間に大きなことが重なるように現われ、飛ぶように過ぎた。かようなことはこの衛研の將來にも何度とはあり得まい。

昨年8月地方衛生研究所全國協議會と日本公衆衛生學會が引續いてこの札幌の地に開催された。共に極めて盛會であつたが、前者は當衛研が世話役を務め所員一同大奮に働いたが中央からの招待側からも遠路からの参加者側からも別段お叱りを受けなかつたことは望外の幸であつた。この會を成功裡に終らせて下さつた各位並びに協力された道衛生部の各位に感謝の意を捧げたい。

第7回日本公衆衛生學會は西野衛生部長が會長として各課員及び道立札幌醫大の各位が腕を振られたのであつて参加者の満足を買つたことは勿論であるが、學會3日間の最後を飾る食品衛生に關するシンポジウムにおいて、説明者の一人として筆者もボツリヌスに就て、自らの検索上の経験を述べる光榮を擔つたことは忘れ難い。

この二つの學術大會を通じて感ぜられることは北海道の衛生についての各般のことが、全國同志から注目されているということである。その技術面を擔當する吾々はここに重大なる責任を痛感する。

幸に本研究所の検査業務も日と共に増加の一途を辿り、又複雑なる技能を要する検査も盛んに行われるようになって来て、舊衛生試験所の域を遙かに抜く情勢をかち得たことは悦ばしい。殊に検査業務に並行して行つてゐる調査研究も、道の要路に立つ方々の理解と、恵まれた好課題の把握によつて二つの注目すべき成果をあげ得たことは、わが衛研の前途に光明を齎すものといつて差支えないであろう。

一つは吾々が本邦において初めて觀察及び検索し得た毒性嫌氣性菌ボツリヌス菌毒素による食中毒即ちボツリヌス症（岩内郡島野村に起つたもの）が更に本道オホツク沿岸の興部（オニツベ）部落と、引續いて網走湖畔女満別町において發生したこと（その詳報は次號に掲載豫定）である。いずれも當所において患者の攝つた残存食物からE型毒素を證明し得た。

これ等3発生例とも等しく道内にて廣く冬期用食品として自家製品にて愛用されている魚肉加工の飯ずしからである。しかもいずれも稀れなりとされているE型菌からの毒素である。從つて今後大に調査研究すべき問題が色々と考えられる。

研究の成果の第二は日本海に浮ぶ禮文島に地方病として發生しつつある怖るべき寄生虫病即

てわ

ちエヒノコツクス症の患者肝即ち病變部より、ここに初めこれが所員のたゆまざる努力によつて該虫の仔虫の頭節を發見し得たことである。

禮文島の該病は稀れなる多房性エヒノコツクス症に屬する。本邦において禮文島以外には宮城縣の2例の報告があるに過ぎない。しかも悉く病理解剖上の診斷であつて、確實に本病を決定すべき鍵として知られている該虫仔虫の頭節はまだ發見されてない。

この新しい検出は更に該虫の終宿主と豫想される犬等から母虫或は卵を見出させるに至るであろう。かくして本病の豫防撲滅が期待される。

吾々所員は道衛生部、道内保健所の支援と北海道大學並びに道立札幌醫科大學の協力を念願して益々本研究の目的達成に進まん覺悟である。

最後に一言附加したい事は道衛生部長西野陸夫氏の榮轉である。氏は去る21年11月初代の衛生部長として厚生省から赴任されて以來在任正に6年、圓轉滑脱明郎溫雅な風格と進歩的建設的な氣象とは宛ら春風飴蕩の裡に芽ぐむ木の芽のようにそこはかとなく而も力強く本道の後進性を開いて衛生行政上に飛躍的な進展を齎しました中途總務部長をも兼任して三面六臂の手腕を揮われた事はここに贅するまでもない。殊に當研究所の前身たる衛生試験所は、氏の赴任後僅に3日を経たばかりの30日夜半不幸祝融の災に罹つて不測の失態を醸したのであるが當時戰後財政逼迫の際にも拘わらず夙夜寢食を忘れて奔走された氏の熱誠は克く道議會その他大方の理解と支援とを得て嘗て倍蓰する規模の施設を實現するに至つた事は、われ等の感銘に堪えない所である。而もこの廳舎が今回の榮轉に際し衛生部員その他との間に交換された留送別挨拶の場所に充てられた事も奇しき因縁であつて永くわれ等の胸裏を徂徊する懷しい思い出の種となろう。ここに本誌の刊行に際し、本所の産みの親ともいべき氏の積る愛顧を反芻して惜別の情に堪えず心から感謝の意を表すると共に保安監として一層重大なる職務のために夙夜活躍せられつつある氏の温容を偲び衷心前途の多幸を祝福して深く敬意を表する次第である。

昭和28年1月下旬

北海道立衛生研究所長 中 村 豊